

県内保健所・センターの取組み

○ 動物愛護教室

動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を図るには、次代を担う子供たちに対する教育が不可欠であることから「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「岐阜県動物の愛護及び管理に関する条例（所有者等の義務及び遵守事項）」に基づき、主に小学生を対象として動物についての理解、生命を慈しむ心の育成、動物愛護意識の高揚及び動物による危害の防止を目的とした動物愛護教室を開催する。令和6年度は、合計10回実施した。

動物愛護教室開催状況

回数等／年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
開催回数	6	11	11	13	10
受講人数	440	1,392	1,145	1,164	839

西濃保健所（海津市立今尾小学校 4年生）

● 実施方法及び内容（講師：動物愛護センター、保健所）

パワーポイントを用いたスライドによる講義

- ・保健所に来た犬猫の数、新しい飼い主に引き取られた数、処分された数の推移
- ・犬猫の飼い方についてのお願い（しつけ、猫の室内飼育、避妊去勢手術、終生飼養など）

聴診器を使ってふれあい犬の心臓の音を聞く体験

- ・犬の体はどうなっているの？（犬の体の仕組み、構造について）

● 保健所担当者の所感

聴診器で犬と自身の心臓の音を聞くことで、同じ命であることを実感できていたように思う。

動物愛護についての関心は高く、犬猫の適正飼養についての話を真剣に聞く子が多かった。

ふれあい犬との交流は好評で、積極的に犬に触りたがる児童がいる一方、犬が怖いと泣き出す子もいたため配慮が必要だと感じた。

可茂保健所（美濃加茂市立下米田小学校、蜂屋小学校、太田小学校、古井小学校、山手小学校、加茂野小学校 1、2、4年生、特別支援学級）

● 実施方法及び内容（講師：農業生産法人、市教育委員会、岐阜大学、保健所）

岐阜大学学生によるヤギについてのクイズの実施

農業生産法人が連れてきたヤギを用い、中庭全体を開放する形で自由にふれあい活動を行った。

- ・農業生産法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明
- ・心音機を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。

保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。

● 保健所担当者の所感

ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。

今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。

東濃保健所（瑞浪市立土岐小学校 3年生）

● 実施方法及び内容（講師：動物愛護センター、保健所）

パワーポイントを用いたスライドによる講義

- ・東濃保健所の業務内容について

- ・公務員獣医師の職域について
- ・保健所の動物業務について（保健所に引き取られる犬猫について、殺処分について）
- ・動物を飼養する時に考えなければいけないことについて

● 保健所担当者の所感

飼育しているペットによって寿命や病気などは様々であるが、今回の生徒の中にはペットを見送る時期に直面している生徒がおり、命との向き合い方に悩んでいた。センシティブな問題であり、生徒の気持ちを慮って回答する必要があると思い、これからの限られた時間をどのように過ごすかを助言した。質問からこのような内容が出たが、講義中にこの点も話すことができれば、良いと感じた。

恵那保健所（恵那市立中野方小学校 1年生）

● 実施方法及び内容（講師：動物愛護センター）

パワーポイントを用いたスライドによる講義

- ・「生きている」ってどうゆうこと？
- ・犬猫を飼うことの責任について
- ・しつけの重要性について
- ・保健所に保護される犬猫について

聴診器を使ってふれあい犬の心臓の音を聞く体験

- ・聴診器を使って各自で自分の心音を聞く
 - ・心音計を使って、犬と人の心拍数の違いを聴き比べる
- ふれあい犬とのふれあい（餌やり等）
- ・犬の触り方について

● 保健所担当者の所感

生徒7名の家庭全てで、犬猫を飼養しており、改めて動物を飼うことの責任について理解を深めることができたと感じた。

飛騨保健所（中山保育園 年長クラス）

● 実施方法及び内容（講師：動物愛護推進員を含むボランティア団体）

パワーポイント（動物愛護推進員作成）を用いてスライドを投影

- ・園児たちへの導入として「動物は好きですか？」の問い掛け。
- ・犬猫の気持ちをクイズ形式で考えてもらう。

さくら猫（地域猫）を題材にしたオリジナル絵本の読み聞かせ。

ボランティア団体が保護した犬猫を用いたふれあい体験

- ・ぬいぐるみのクマと犬猫との違いを園児に問いかけ考えてもらう。

● 保健所担当者の所感

最近は室内で犬猫を飼う家庭が多くなったせいか、触り慣れや抱き慣れをした園児が多数見られた。動物愛護の心を養うには、子供の頃から動物との触れ合いを通じて、命の尊さや動物との距離感を学ぶ事が重要だと感じた。

さくら猫や地域猫活動は、地域の野良猫問題解決の糸口となると思われるが、大人でも理解し難い。園児たちには少し難しいように思えたが、「悪さをする猫は殺処分」という大人の事情で解決するのではなく、手術をしたさくら猫たちとの共生を伝えていくことが大切だと改めて感じた。

○ 動物愛護推進員活動支援事業

県が推進員活動の環境を整備し、その活動を支援することにより、県民に対する動物の愛護及び適正飼養等の普及啓発を図る目的で、各保健所及びセンター管内の推進員活動の支援を実施した。

岐阜保健所

支援内容 動物愛護推進員（保健所推薦）が行う笠松刑務所の受刑者を対象とした犬やインコを用いたふれあい体験や命の大切さに関する講話について支援を実施

本巣・山県センター

支援内容 本巣市総合防災訓練において動物愛護推進員（獣医師会推薦）が実施する同行避難に関する啓発活動の支援を実施（パネル展示、資料配布、個別相談）

可茂保健所

支援内容 動物愛護推進員（ネットワーク会議推薦）と貧困世帯における猫の飼養に関する支援（適正飼養に関する助言指導）を実施

東濃保健所

支援内容 愛護推進員（保健所推薦）が行う猫の保護活動の支援を実施

飛騨保健所

支援内容 動物愛護推進員（保健所推薦）が所属するボランティア団体が実施するイベントの普及啓発活動の支援を実施

○ 譲渡ボランティア登録

県内の保健所等は、ボランティアの協力を得て収容動物の譲渡を行っている。県生活衛生課で一元的にボランティアを登録し、広くボランティア登録者に譲渡対象動物の情報を提供している。また、令和4年度から登録ボランティア同士の連携の強化を目的に、ボランティア間の情報交換会を県が主催している。

登録者 65人（令和7年5月1日時点）

○ 東濃圏域の地域猫不妊去勢手術委託

地域猫活動の重要な部分である不妊去勢手術を動物愛護センター（美濃市）で実施しており、動物愛護センターの手術室、術後の猫を観察するための場所、手術者に限りがあるため、1日あたり実施できる手術頭数に制限がある。

飼い主のいない猫に不妊去勢手術を受けさせる場合は、動物愛護センターへ搬送する必要があるため、東濃地域の自治体等から手術のために猫を搬入する際の移動距離が負担となるため、東濃地域（東濃保健所・恵那保健所管内）の動物病院に地域猫として管理する猫の不妊去勢手術を委託している。

○ 子猫のミルクボランティアの育成

県内の保健所で収容した猫のうちその多くは離乳前の子猫が占めている。

岐阜県動物愛護推進計画の家庭で飼養できる犬猫の殺処分50%削減を継続的に達成するためには、離乳前の子猫の譲渡を推進する必要があるため、離乳前の子猫を譲渡可能な大きさまで育てるミルクボランティアの育成を行う。

ミルクボランティア登録者数

登録者 65人（令和7年5月1日時点）

預託頭数

	R 4	R 5	R 6	合計
預託頭数	4 2	1 1 9	1 0 3	2 6 4